

SDGs は 2015 年、国連総会において採択された、2030 年に向けての 17 の目標と 169 のターゲットから成っています。世界のすべての国に普遍的に適用される「持続可能な“発展”目標」であり、「21 世紀型の経済成長戦略」と言えます。この SDGs のための宗教者の会議に参加してきました。キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、ヒンドゥー教、シーク教、仏教、道教、神道の代表者たちがスイスのツークに集まり、UNDP（国連開発計画）やカトリックの総本山バチカンからも参加があり、宗教者として SDGs の達成のために何ができるか、何をすべきか、特に投資行動のあり方が熱心に討議されました。

「なぜ宗教が SDGs に？」という問いに、たとえばヒンドゥー教の代表者はこのように答えてくれました。

「ヒンドゥー教徒は、インド国内で 8.3 億人、その他の国の信者を合わせると 9 億人で、キリスト教、イスラム教に続いて人口の上で世界第 3 番目の宗教であり、今や信者は全世界にいるのだから、世界的課題に向き合うことが重要です。教義に従って生きることを、グローバルなコンテキストで考えなければいけないということです。それで、2015 年に SDGs をどう達成していくかという Bhumi プロジェクトを立ち上げました。」

「投資によって、より良き持続可能な開発に貢献できると確信しています。ヒンドゥー投資家にとって、投資の財務的なリターンだけでなく、社会的、政治的な視点、環境問題や心の充足といった視点も大事です。信仰の教義に沿った投資基準を開発しようとしています。ヒンドゥー教にはもともと多くの宗教、精神的、哲学的な伝統が混在しており、さらに個人によってそれぞれの行動は多岐にわたります。個人の選択を重んじることは、ヒンドゥー教の伝統的価値観だからです。投資に際しては、動機と結果についてよく考えること、つまり投資の原則と価値が広い意味で世界に良きものをもたらすということを考えるべきだと思います。」

「ヒンドゥー教の考えでは、我々の存在は、広大な宇宙における本当にささやかなものであり、このように精妙に設計された自然の摂理と、その背後にある超自然的な知恵の一部になることをめざしているのが人間で、世界を富ませ、持続可能にすること、この世界全体のサーバントになるのが人間なのです」

このような哲学的な命題に生きている宗教者にとって、教義に沿って実際的な投資基準をつくることは、なかなか困難に見えます。しかし、人々のライフスタイルをより環境配慮型にすることが地球のサステナビリティの鍵になるので、個人のライフスタイルに強い影響を与える宗教が SDGs に関わることの意義は大きいのではないのでしょうか。